キャラクター名
犬餓実　心偽　いぬがみ　しんぎ

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	
オプショナル		年齢	16	性別	漢
覚醒	犠牲	衝動	解放	初期侵食率	34 %
出自	平凡な人生	経験	否定	邂逅	未だ、先達は現れず

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0	3		8
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	37
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	10		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	8		知覚			意志			調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ワイヤーウィップ	白兵	8r+8		6		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
戦闘人格	P　執着	N　嫌悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
ターゲットロック	3	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果： シーン中、攻撃力+Lv*3。								
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果： シーン中、肉体ダイス+Lv*2個。アイテム使用不可。								
知性ある獣	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果： 完全獣化と併用。アイテム使用可。								
獣の力	5	2	メジャー	武器	単体	対決		
効果： 攻撃力+Lv*2。								
吠え猛る爪	1	2	メジャー	武器		対決		
効果： 装甲無視。攻撃力-「5-Lv」								
浸透撃	2	2	メジャー	武器	単体	対決		
効果： ガード無効。シナリオLv回。								
コンセントレイト	3	2	メジャー			対決		
効果： C値-Lv（下限7）。								
ベーシックリサーチ	3	2	メジャー					
効果： ダイス+Lv個。								
マシラのごとく	3	5	メジャー		単体	対決	80	
効果： 攻撃力+Lv*10。ダイス-5個。								
アクロバット	3	2	リアクション	至近	自身	対決		
効果： ドッジダイス+Lv個。								
リフレックス	3	2	リアクション			対決		
効果： C値-Lv（下限7）。								
レストレインコマンド	1	4	マイナー	至近	自身	自動		
効果： バッステ3個、シナリオLv回。								
	★							
効果：								

自身の人格を「愚かな獣」と称し、自虐する。
愚人格は、賢人格の記憶を一方的に共有するが、賢人格は、愚人格の記憶を共有した様子はない。
愚人格は、言動が粗暴で、気遣いに欠ける。賢人格に好意的、というか受容的で憐憫的。
賢人格を明確に「自分」と認識しながらも、他人であるかのように慈しみ、憐れむ。
賢人格は、言動は整然とし、良心的。愚人格を忌み嫌っている。
愚人格は自分の人格の一つにと認識しながらも、存在してはならないもののように忌避し、ひた隠す。
容姿での判別はできないが、一見に判別は容易で、その方法は「ポケットに手を突っ込んでるか見ること」。
愚人格がポケットに手を突っ込むのは「ポケットに、武器であるワイヤーウィップを忍ばせている為、いつでも攻撃に転じれるように」という実際的な理由である。

愚人格の戦闘スタイルは、傍若無人ながら、適当な方法で、適切に危害を加える強かな面を持っている。

本来、彼は愚人格と近い人格を持っているが、これを「愚かな獣」として封印し、賢人格を以て生きてきた。
レネゲイドは、彼の内にある烈情を増幅させるリピーターとなり、覚醒後は、愚人格を有するようになった。
「増幅」とはいったものの、人格自体はレネゲイドウイルスが補っている部分があり、レネゲイド共生体ともいえるが、レネゲイドに自我はなく、あくまで人格の一つと認識している。
それをきっかけに、彼は「理不尽な感情」を愚人格に投げることを始め、その一つに、「愚人格との記憶の共有を断つ」というものがある。
これは無意識的で、実際賢人格はその記憶を思い出せないが、これは実人格による疑似的な忘却であり、つまり、本当のところは知っている、

覚醒契機は、彼の学生時代。